



交流会・研修会・勉強会に参加して

中村さやか、玉田 亜依、屋良 記衣

I. はじめに

研修会・勉強会については近図雲（近畿病院図書館協議会会員サイト）などから他の資料をご覧いただけますので、この度の発表は主に交流会について取り上げ、当院での業務への活用例を挙げていきます。

II. 病院概要

正式名称は「地方独立行政法人 神戸市民病院 機構 神戸市立医療センター中央市民病院」で、病床数は700床です。2011年7月に新築移転し、現在は増改築中です。

医療機関機能として、地域医療支援病院、病院機能評価認定施設など15の施設認定を受けています。また、日本がん治療認定医機構研修施設など、73の各種学会の認定施設（2014年4月時点）でもあります。

周辺には、理化学研究所・神戸空港・スーパーコンピュータ『京』・医療産業都市中核施設などの施設があります。

III. 図書室概要

利用対象者は当院職員と地域医療従事者で、24時間利用できます。

利用できる設備は、インターネット接続パソコン6台、閲覧座席28席、無料白黒コピー機1台、閲覧室と電動書庫の2エリアです。

蔵書数（2015年）は、書籍冊数が約6,500冊、雑誌冊数が約36,000冊、雑誌タイトル数が約

1,000種類です。なお、2013年以前発行の雑誌については1バーコード登録を製本1冊として数えています。1バーコードは2～5冊を製本しています。2013年以降発行の雑誌は1バーコードにつき登録1冊です。

IV. 司書業務

司書在室時間は、平日9時00分～17時30分です。スタッフは司書3名ですが、他部署と兼務で常時2名が図書室で業務に就いています。

主な業務内容（2015年）は、資料の貸出（367件）、文献複写申込（1,767件）、雑誌・書籍の受入（2,402件）です。

V. 交流会に参加した動機

当図書室では、2011年7月病院の移転後から蔵書の管理方法がバーコード管理へ変わりました。

現在の担当（中村）が図書室の業務に就いたのが2012年4月からで、その時点では約30,000冊の蔵書がバーコード登録の最中で、まず病院図書館として機能できる状態にするところから始めなければなりません。旧病院からの資料・所蔵記録の無い状況で、引き継ぎも上手くいかず、移転後から1年で病院図書館についてわかる人もいなくなりました。また、図書室の図書について考え方の根拠となる資料がありませんでしたので、当図書室の購読雑誌の構築についての問い合わせや、正式な除籍基準について、図書委員会への議題資料を作成してほしいとの依頼もきました。

移転当初から足を運び指導して下さった、

なかむら さやか、たまだ あい、やら きえ：

神戸市立医療センター中央市民病院 図書室

同じ神戸市民病院機構である西市民病院の先輩のおかげで、業務についての基本を知ることができました。

さらには、近畿病院図書室協議会（病図協）主催の研修会、勉強会にも積極的に参加しましたが、それでもわからないことが出てくる状況でした。

そんな時、交流会の案内が届きました。研修会や勉強会では聞けなかったことや日々の業務で困っていること、疑問に思っていることなど、なんでも話し合える場で、お弁当も出ますよ、といった内容の案内でした。

参加すれば勉強にもなるし、他館の状況も気になります。業務に役立つお話も聞けるかもしれないと思い、参加することにしました。

VI. 交流会とは

「雇用の立場上、研修会や勉強会への参加が難しい」「茶話会のようなイベントがあれば参加したい」「困ったときに相談する担当者が欲しい」¹⁾ といった図書館員の声から交流会が開催されるようになりました。

開催は年に1~2回で、これまでの会場は大阪・京都・神戸です。

VII. 交流会の雰囲気、内容

交流会は、和やかな雰囲気です。

初めての参加の方も参加しやすいように、テーブルは円形に組まれ、席順なくランダムに席に着き、順に自己紹介から始まります。ランチミーティングのような感じで、お弁当を広げながら、進行役の方が事前に寄せられた議題を取り上げ、挙手で回答や各館の事例を挙げていき、皆で意見などを述べていきます。いつも時間ぎりぎりまで、話はずみずみ。

VIII. 交流会での議題例

1. 第8回交流会（2014年10月4日大阪開催）

(1) 新院長より図書を150冊程寄贈いただくことになったが、すでにある本と一緒に配架

するか、〇〇文庫として別置するか、登録番号を一緒にするかどうか頭を悩ませており、皆さんの経験やアドバイスを聞きたい。

- (2) 臨床実習生の図書室利用について規定を作成していたら教えてほしい、特にパソコンの利用についての決まり事をどうしているか、教えてほしい。
- (3) 購読の見直しなどはどのようにされているのか？予算の削減やその対応策はどのようにされているのか？また、施設の規模や医療収益なども考慮するのかどうか？
- (4) 雑誌はどの程度買っていたら適当なのか？
- (5) 高騰する雑誌価格への対処について。
- (6) 文献複写を受けた際に、書誌確認・電子コンテンツの有無をPubMedから確認する方法について。

2. 第9回交流会（2015年6月20日神戸開催）

- (1) Natureなどの表紙が柔らかく薄い、自立しにくい雑誌はどのように書庫へしまっているのか。業者へ製本してもらわずに保管しているのか。良いアイデアがあれば教えてほしい。
- (2) 和雑誌・洋雑誌の分類はどのようにしているのか。日本で発行している英語雑誌や、雑誌名が日本語から英語に変わっているものがある。
- (3) 文献複写でFAX送信の依頼が来た時に、どのように著作権の確認をしているのか、また、詳しい手順があれば教えてほしい。
- (4) タブレット端末への解剖図アプリを図書費で購入したことはあるか。
- (5) クリニカル・キー導入館に、その感想を聞きたい。
- (6) 図書の貸し出しができなくなっており、看護研究もなく、担当者は常時席にいない状況であり、現状は図書室だよりで図書室の利用を呼びかけているが、図書室に足を運んでももらえるようないいアイデアはあるか？
- (7) 雑誌についている付録、特に本体とサイズ

の合わない、おまけのようなものの扱いはどのようにされているか？

(寺澤裕子. 近図雲・交流会メモ. [引用 2016-04-04]より抜粋)

IX. 研修会・勉強会との違い

VIIIで議題例を挙げましたが、交流会は研修会・勉強会と違い、日常業務で困っている事や疑問に思うこと、他館がどうしているのか聞きたいこと、研修会・勉強会では聞けなかったことや受講してその後疑問に思ったことなどが議題として取り上げられます。

決められたテーマではなく、各自が考えていることを話し合います。

X. 交流会へ参加した感想

初めての方も参加しやすいように、幹事や継続年数の長い方は、わかりやすい言葉で答えてくれます。

当図書室では業務ではないことも、他館では業務として取り組まれていることがあり、各館によっての業務内容の違いも知ることができ、勉強になりました。

例えば、当図書室では雑誌の購読については全く携わっていないのですが、他館では年に一度の重要業務となっており、見積りから購読誌の選定まで行っていることや為替相場の話など、皆さまの苦勞を聞きました。病院機関誌の発行をお手伝いされている館もあることを知りました。

日頃会えない図書館員と会える場です。何十年と経験を積まれるベテランの方、遠方から泊りがけで参加される方ともお会いできて、その熱意とバイタリティに驚きました。

XI. 当院での活用事例

1. 年報・紀要の廃棄

他館の運用や利用実態などが参考となり、廃棄資料を選定することができました。図書委員会での承認を得て、除籍・廃棄することで、書

庫を整理することができました。また、廃棄雑誌は利用者とは病図協加盟館へ譲渡のお知らせをして、希望者にお渡ししています。

2. 医中誌 Web と KITOcat 所蔵目録、記録の更新

2013年1月に、医中誌 Web バージョン5へのバージョンアップ研修会と近畿病院図書室協議会新所蔵目録 Web 版の説明会がありました。同年4月に新所蔵目録 Web 版は KITOcat として本稼動し、11月に医学中央雑誌刊行会からの説明会もあり、バージョンアップ後にそれぞれの所蔵記録を更新しました。

文献複写の依頼件数が増加する中、依頼先の検索がスムーズになりとても助かりました。

2014年8月に文献複写について院内でアンケートを実施し、文献到着日数について満足であるとの回答もいただいています。皆さまのご協力のおかげです。

3. 近図雲でのコミュニティサイトの活用

メディカルオンラインの導入に向けて、病院からメディカルオンラインの利用実態について問い合わせがありました。

コミュニティサイトを用いて、メディカルオンライン導入館の皆さんからその利用実態を教えてくださいました。ダウンロード件数が多すぎると配信をストップされること、文献検索ツールではないことについて利用者へ説明が必要な時があることなどの回答をいただきました。

回答をまとめ病院へ報告し、購入についての参考としました。2014年1月からメディカルオンラインの購読が決まり、KITOcat の所蔵目録にも登録しています。

4. PubMed Link Out の設定

当図書室の2016年の海外出版電子ジャーナルの購読は約154タイトルあり、会誌「病院図書館」31巻4号でこの Link Out の設定のことを知ってから、ぜひ設定したいと考えていました。日本医学図書館協会発行の『図解 PubMed の使い方第6版』も読みましたが、設定後エラー発生などがあるのかわからず、米国国立医学図書

館とのやり取りなども含め PubMed Link Out 設定の手順計画と、設定後の業務計画について決めかねていました。

ちょうど研修会の案内が届き、参加しました。研修会の後も米国国立医学図書館とのやりとりや手続きについて研修部の方よりアドバイスもいただき、無事に設定することができました。設定後はエラーもなく、利用統計も集計して図書委員会へ報告資料として提出しています。

XII. 最後に

病図協主催の交流会・研修会・勉強会に参加し学ぶことで、効率よく作業計画を立てることができ、図書室業務の運用に役立てることができました。

引用文献

- 1) 藤原純子：報告：近畿病院図書室協議会第1回交流会 in 京都. 病院図書館. 2010 ; 30(2) : 102.